

免疫検査の迅速報告による診療の効率化と検査データ運用

◎小林 千明

当院は地域完結型医療への転換、救急医療を主体とした診療体制を標榜している。また、検査報告時間の短縮は患者サービスの向上と共に診療支援としての価値が向上すると考えている。当院で導入している Accuraseed は富士フイルム和光純薬（株）より発売されている免疫分野では最速の測定時間 10 分を実現した自動化学発光酵素免疫分析装置で高速度・高感度・高精度に結果を報告でき、生化学検査と同時報告が可能である。

本セミナーでは Accuraseed を導入した結果、免疫検査の迅速化が診療にどのような影響を与えたかを腫瘍マーカー、高血圧診療、甲状腺診療の視点から考察し報告する。

腫瘍マーカーは化学療法効果判定において重要であり、また、近年、化学療法は外来で行われることが多く、腫瘍マーカー値の測定は画像検査とともに、生命予後の予測や治療法の変更において重要な判断基準となっている。迅速な報告は診療支援としての価値が向上すると考え、これまで、TAT 短縮を目的に人員配置の変更や様々な業務改善、検査システムでの再検ロジックの変更などを試みてきたが、免疫検査では測定時間がボトルネックになっていた。従来測定機の測定時間は 20 分であったが再検が必要であると、必然的に TAT が延長していたが、Accuraseed では測定時間が 10 分でしかも多数の項目で測定レンジも拡大し、試薬、消耗品も随時架設可能で利便性も高く、ロスタイムがかなり減り TAT 短縮ができた。また、甲状腺診療においても治療法の選択や投薬量の変更などに必要な甲状腺ホルモンの迅速な結果報告は診療前検査に欠かせない。以前より甲状腺ホルモン測定値のメーカー間差が指摘され、測定系全体の標準化が望まれているが、今回、甲状腺疾患治療中の症例において、臨床症状や画像所見などから臨床評価を行った結果、臨床所見と矛盾のない結果を示し、甲状腺疾患を治療中の患者の治療効果判定にも有用であることが確認できた。

高血圧診療においても迅速なスクリーニングは、再診率の低減、適切な降圧剤処方など患者負担の軽減に大きく貢献する。「高血圧治療ガイドライン 2014」では、未治療の高血圧症について血漿アルドステロン濃度(以下 PAC)、活性型レニン濃度(以下 ARC)、もしくはレニン活性(PRA)を同時測定し、Aldosterone Renin Ratio(以下 ARR)による判定が示されている。今回、院内にて PAC、

ARC の迅速測定が可能となったことから高血圧診療に及ぼす意義について考察した。また、当日は他にも迅速報告が診療に与えた影響について紹介する予定である。